2023.3.11 茨城新聞

日銀の視点

お札の肖像画が回転？

日銀水戸事務所長 上野 淳

今回はデジタルとお札、両方のお金を巡る話題を取り上げたい。まずは、中央銀行が発行するデジタル通貨。「Central Bank Digital Currency」の頭文字を取ってCBDCと略称されている。日銀では2020年10月に取り組み方針を公表し、「現時点でCBDCを発行する計画はないが、今後のさまざまな環境変化に的確に対応できるよう、しっかり準備しておくことが重要」とのスタンスの下、技術的な実現可能性を検証するための実証実験などを着実に進めている。先月には「概念実証を予定通り3月に終了し、4月からパイロット実験を実施する」との旨を公表した。わが国でCBDCを導入するかどうかは、現時点では決まっておらず、今後の国民的な議論の中で決定されるべきものと考えている。日銀としては、こうした議論に資する観点からも、引き続きしっかりと取り組みを進める方針だ。

次に、日銀券（お札）の改刷について。前述のCBDCに関する取り組み方針で「現金に対する需要がある限り、今後も責任を持って供給を続けていく」と述べている通り、日銀券の供給を適切に行っていくことの重要性はいささかも低下していない。日銀券の様式は財務大臣が定め、発行は日銀が行うという法制度の下、今回の改刷については、19年4月に財務省が決定・公表。日銀では、同省などと連携しながら、24年度上期を目途とされている新券の発行に向け、所要の準備を着実に進めている。なお、現行券は、新券の発行開始後も引き続き通用する。「現行の日銀券が使えなくなる」などとかたった詐欺行為には、くれぐれもご注意いただきたい。

決済のキャッシュレス化が進展する中でも、日銀券への需要は根強く、発行残高は年々増加している。こうした中、引き続き安心して日銀券を使っていただけるよう、新券では、新たな偽造防止技術を取り入れている。具体的には、「3Dホログラム」といって、傾けると肖像（渋沢栄一などの顔）が3次元に見えて回転する、銀行券への搭載は世界初となる技術などだ。また、額面数字を大型化したり、指で触って券種を識別できるマークをより分かりやすくするなど、どなたにも分かりやすいユニバーサルデザインを、従来以上に活用している。

新券については、24年度上期目途の発行開始に向け、日銀ホームページやパンフレットなどで、写真も用いながら、より詳しく説明しているので、ぜひそちらもご覧ください。

（次回は4月8日掲載）